

# 中国語の環

第132号

『中国語の環』編集室編 2026年4月

- 目次 10 **中国語でどういう？ “破戏”は何が「破られている」の？**
- 11 **例文で説き(=解き)ほぐす中国語文法**  
Lesson 16 バアを求めて… (その9)
- 12 **中国語と文化** 商標の普通名称化
- 13 **語彙学習の話** 流行語“卷”について
- 14 **看图学汉语** 这是什么动作？
- ※ **紛らわしい文法表現** “没学三年”と“三年没学”
- ※ **中国語の文法は面白い** 中国語の“想”“愿意”“要”について (3)
- 16 **中検のススメ** 多邻国



『中国語の環』Web

※Web版のみ

## ひとことエッセイ

「火中の栗を拾う」、「火中取栗」という成語は、日本語でも中国語でもよく知られている。17世紀のフランスの詩人、ラ・フォンテーヌの寓話集に見える賢いサルとお人よしのネコの話に基づいている。ネコはサルに言いくるめられて、暖炉の中の灰を掻き分けてクリを取り出すが、大やけどをしたあげく、クリはサルに食べられてしまう。

「火中の栗を拾う」は『岩波国語辞典』には、「他人の利益のためにあぶないことをする」とある。ちょっと物足りない。同じ岩波の『広辞苑』には「他人の利益のために危険をおかして、ばかなめにあうこと。あえて危険に身を投ずること」とある。前半に「ばかなめにあうこと」を付け加えたのは、より寓話の原義に近い。後半の「あえて危険に身を投ずること」は、今日における日本語での使われ方を意識してのものであろう。

ところで、中国語の「火中取栗」だが、こちらはもっぱら「ばかなめにあうこと」にのみ使われ、「あえて身を投ずる」という使い方はない。だとすれば、「火中取栗」の日本語訳に、「火中の栗を拾う」をあてるのは考えものだ。 (上野 恵司)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・  
複写・転載することを禁じます。

## “破戏”は何が「破られている」の？

張 勤（中京大学）

中国語の“破”は、まず「壊れる」「破損する」といった意味を第一に思い浮かべるが、実際の会話では“破老太婆”や“破戏”などの言い方もよく耳にする。壊れていない芝居を“破戏”と呼び、何かを壊したわけでもない高齢女性を“破老太婆”と言うとき、話し手は何を伝えようとしているのだろうか。次の例を見てみよう。

(1) 那家公司就是个破公司，早点走算了。（あんな会社はろくでもない会社だから、早く辞めたほうがいい。）

(2) 这个破地方有什么好待的？（こんなつまらない所、何が楽しくているんだ？）

(3) 他整天为这种破事儿生气，真没必要。（彼はこんなくだらないことで一日中腹を立てていて、本当に無意味だ。）

上の例において、“破”は、会社が実際に倒産寸前なのか、場所が荒廃しているのか、出来事がどれほど重大なのかといった対象の状態や品質を客観的に説明してはいない。話し手は“破”という一字で、それらのことを「重要ではない」「真面目に扱う気がしない」と表現しているのである。「評価するに値しない」という話し手の姿勢そのものが、結果的に対象の状態や価値を説明しているようにも受け取られるが“破”のポイントはあくまで「もう論じる気もない」という距離の取り方にある。

(4) 这出戏真是个破戏。（この芝居は本当につまらない。）

(5) 楼下那个破老太婆又投诉我们了。（下の階のあのばばあ、またうちのことを通報したよ。）

(4)では、芝居の内容や構成を具体的に批評しているわけではなく、ただ「見る価値がない」「評価する気にもならない」という話し手の感情が、極めて簡略化された形で示されているにすぎない。(5)の“破老太婆”も、年齢や外見を客観的に描写するのではなく、その人物を社会的に「相手にする価値のない存在」として切り捨てる表現であり、話し手の苛立ちや嫌悪感が手に取るほど感じられる。“破老太婆”以外にも、“破老头”“破男人”などの表現がよく使われるが、いずれも特定の行為や場面と結びついて用いられる露骨な表現であり、使用には注意が必要である。

このように、“破”は一字で「価値を下げ、距離を取り、説明を省く」という三つの働きを同時に行っている。日本語で“破戏”に近い意味を表そうとすれば、「くだらない芝居」「見るに堪えない芝居」など、何らかの評価を表す表現を選ばなければならない。“破老太婆”であれば、「くそばばあ」など、かなり強い罵倒語を用いる必要があることから、“破”の率直さと簡潔さがよく分かる。

“破”に近い表現としては、“烂”や“差”などがある。“破”とは異なり、“烂戏”や“差公司”は、内容が悪い、質が低いといった主観的な評価をやや具体的に示す表現であり、主観性は強いものの、“破”ほど強い感情の昂りを伴わない。

## Lesson16 ペアを求めて…（その9）

古川 裕（大阪大学）

中国語の表現は「対」＝ペアを作ることによって安定する性質があります。その証拠に中国語では単独ではなく、対句にして言う固定的な表現がたくさんあります。

前回に続いて今回も『中検 成語・慣用語・ことわざ』（朝日出版社、2024年4月）から、ことわざや慣用語表現のおもしろい実例を見てみましょう。

ことわざというものは人間のあり方、人としてあるべき道理を伝えることが多いので、おのずと“人”の字が頻出しますが、そのペアとして配置されるものは日本語の発想をはるかに超えていて、私たちの興味を引きます。

- ・[人：樹] 十年樹木，百年樹人…木を植えるには十年，人を育てるには百年。  
人挪活，樹挪死…“挪”は物を動かして場所を変えるという意味の動詞。樹木は場所を変えると枯れるが，人は環境を変えることで新生面が開くものだ。
- ・[人：根] 根要深，人要真…“深shēn”と“真zhēn”で脚韻を踏んでいます。根は深く，人は誠実であらねばならない。
- ・[人：鬼] 画鬼容易，画人难…“人”と“鬼”（幽霊，亡霊）がペアになるのは，いかにも中国語です。“鬼”のように誰も見たことがないものをでっち上げて描くのは容易だが，皆が知っている“人”を描くのは難しい。  
人不知，鬼不觉…“人”と“鬼”，“知”と“觉”のダブルペアです。意味は，ひそかに，こっそりと。“神不知，鬼不觉”という“神：鬼”ペアでも言います。
- ・[人：水] 人往高处走，水往低处流…水が自然と低い方向へ流れるように，人は高みを目指すものだ。
- ・[人：鳥] 人往高处走，鸟往高处飞；人往高处走，鸟往高枝飞；人往高处走，鸟往亮处飞…人はより高いポジションを目指し，鳥は高いところ，高い枝，明るい所を目指して飛ぶものだ。  
人为财死，鸟为食亡…人は金銭のために身を滅ぼし，鳥はエサのために捕殺される。欲は身を亡ぼす。
- ・[人：猪] 人怕出名，猪怕壮…人は有名になると面倒に巻き込まれ，ブタは太ると殺される。日本語なら「出る杭は打たれる」，中国語は「太るブタは食われる」。
- ・[草：人] 草生一秋，人生一世…春に咲いた草花が秋に枯れるように，人の一生も短い。若い日々を無駄に過ごしてはならない。  
このほかこんなおもしろいペアもあって，人生の味わいがあります。
- ・[人心：海水] 人不可貌相，海水不可斗量…人は外観では判断できない，海の水は升では測れない。人は見かけによらぬもの。
- ・[前人：后人] 前人栽树，后人乘凉…先人が植えてくれた木のおかげで，後世の人はその恩恵を受けて涼むことができる。

## 商標の普通名称化

加藤 徹 (明治大学)

中国語のテキストを作るのはたいへんだ。語学的な苦勞だけではない。さまざまな「大人の事情」がある。

「商標の普通名称化」(ジェネリッド化 / *generification*) もその1つだ。

ステープラー (英語 *stapler* 中国語 “订书机” *dīngshūjī*) は、紙をコの字型の金属の針でとじる器具のことだが、日本語では「ホチキス」ないし「ホッチキス」と呼ぶ。20世紀初めに日本に輸入されたステープラーは、米国のE.H. ホッチキス社の製品だった。日本人はステープラーを「ホチキス」と呼んだ。その後、他社が生産したステープラーも、日本では「ホチキス」と呼ばれ続けた。

庶民はホチキスと呼んでOKだが、公共的な中立性を守る必要がある場合は、特定企業の商標由来の名称は避けるべきだ。現に、JIS規格では「ステープラ」と呼ぶ(ステープラー、ではない)。NHKは、以前はホチキスを必ず「ステープラー」と言い換えたが、現在は「ホチキス」も許容されるようになってきている。

中国語にも「商標の普通名称化」はある。特にデジタル機器関係に多い。

例えば、NHKテレビ『中国語!ナビ』2026年2月号第44課は、“別〜”(〜するな)を学習する回だが、その会話練習のために以下のような例文を考えた。

A: うわ、スマホの電池がもうすぐなくなりそう。

B: あわてないで。私のモバイルバッテリーを使って。

私が作った中国語訳は以下のとおりである。

A: 哎呀，我的手机快没电了。

Āiyā, wǒ de shǒujī kuài méi diàn le.

B: 别着急，你用我的移动电源吧。

Bié zháojí, nǐ yòng wǒ de yídòng diànyuán ba.

中国の庶民は、モバイルバッテリーを“充电宝”*chōngdiànbǎo* と呼ぶ。これはもともと、2003年創業の中国企業の製品名だった。中国でも、公共的観点から中立性を求められる場では“移动电源”という正式名称を使う。NHKの教材なので、私はここで、あえて中国の庶民にとって耳慣れない正式名称を使った。

テレビ放送では、この会話のAを「ユンくん」こと梁源さんが、Bを生徒役の柏木由紀さんが演じた。柏木さんのナチュラルで絶妙な演技のおかげで、“移动电源”という単語に違和感を覚えた視聴者はいなかった……とりたい。

## 流行語“卷”について

沈 国威（浙江工商大学）

流行語“卷”は“内卷”（過当競争，非生産的努力）の短縮形で，2021年に「十大ネット流行語」にも選ばれた近年中国のネットで最も流行った言葉の一つである。

“卷”はもともと物体を丸めて筒状にする動作を表す動詞である。例えば“卷起袖子”（袖をまくる），“把地毯卷起来”（カーペットを巻く）のように“卷起…”“把…卷起来”という文型で使用するのが一般的である。一方，流行語としては「過当競争」という意味が加わった。より多くの労力，時間，資源を投入するが，成果がそれに比例せず，関係者全員が疲れ果てても得られる利益は増えそうにないという「無駄な努力」という意味合いが強い。以下，動詞(1)(2)(3)；形容詞(4)(5)；名詞(6)の例を見てみよう。

- (1) 公司里所有的人都在卷，我也只能跟着卷。（会社ではみんなが必死にやっているから，こっちもやるしかない。）
- (2) 说实话没有人愿意卷，但不卷就会被淘汰。（本当のことを言えば，必死にやりたい人はいないよ。しかしやらなければ淘汰されてしまう。）
- (3) 现在电动车行业卷得太厉害了。（いまのEV自動車業界の競争は激しい。）
- (4) 教培这个行业真的很卷。（学習塾の業界は本当に競争が激しい。）
- (5) 今年的研究生考试太卷了。（今年の大学院入試は競争が激しい。）
- (6) 可以说这种卷真是毫无价值。（このような競争は全く無意味だと言える。）

なお，“卷”に関連する語句には次のようなものが挙げられる。

卷王：ある分野で一番必死になって取り組む人のこと。

卷不动：心身ともに疲れ，もうそれ以上競争できなくなること。

焦虑：気をもむ，不安を感じる。“卷”の原因は“焦虑”とも言われている。

躺平：横になる。“卷”を諦め，競争から撤退する。低欲望，低消費を貫くこと。

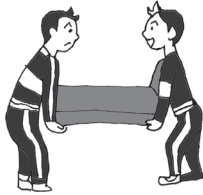
反卷/拒卷：“卷”に明確な意志を持って抵抗すること。

中国の若者は「不安，不満，なすすべがない」といった複雑な感情をもって“卷”という言葉を使っている。この言葉は経済成長の鈍化や明るい未来がだんだん遠く中で，若い世代が直面する過酷な競争圧力と集団的な不安を的確に捉えている。現象を客観的に記述するものでありながら，個人のリアルな感情をも表現し，現在の中国社会の民衆心理と価値観を理解するためのキーワードになっている。そのため“卷”は一時的な流行語にとどまらず，一般語彙にすっかり定着したようである。

“卷”の流行は，現代中国語の1つの傾向を反映しているとも言われる。つまり複雑な社会問題を一文字で情緒的に言い表そうとすることである。“怼”（たてつく），“怂”（尻込みする，逃走する）などが同じ例である。文章では2字語，口頭表現では，1字語という棲み分けが存在していると言えよう。

这是什么动作?【さまざまな動作(3)】

絵 張 恢  
文 『中国語の環』編集室



搬 bān

(重く大きい物を) 運ぶ, 移動する

- 太重zhòng了, 我一个人搬不动bānbudòng。
- 把花盆搬到外面去 植木鉢を外に移す
- 搬不起来 bānbuqǐlái 重くて運べない



抬 tái

(2人以上で) かつぐ, 持ち上げる

- 两个人抬一桶tǒng水。
- 箱子太重了, 我们两个抬不起来。
- 抬担架 tái dānjià ➢ 抬轿子 tái jiàozi



挑 tiāo

(てんびん棒で) 担ぐ, 運ぶ

- 挑两桶tǒng水 水を1荷(ふた桶)運ぶ
- 挑青菜qīngcài ➢ 挑柴火cháihuo
- 挑担子dànzi 荷を担ぐ; 重任を負う



扛 káng

担ぐ, 肩に乗せて運ぶ

- 把货huò扛在肩上 荷物を肩で担ぐ
- 这个箱子太沉chén, 我扛不动kángbudòng。
- 扛枪 káng qiāng 銃を担ぐ; 武器を取る



背 bēi

背負う, 背中に乗せて運ぶ

- 把行李背在身后 荷物を背負う
- 背背包 bēi bēibāo リュックを背負う
- ※“背”(bèi)は「背中, 背を向ける」。



挎 kuà

腕に掛ける, (肩・腰などに) さげる

- 她挎着个筐子。彼女は籠を腕に掛けている。
- 腰里yāoli挎着刀 腰に刀をさげている
- 挎书包儿 かばんを肩に掛ける



## 抱 bào

(腕の中に) 抱える, 抱く

- 她把孩子抱在怀里huáilǐ。
- 他把包袱bāofu抱回去了。  
彼は包みを抱えて帰った。
- 抱一捆kūn柴火cháihuǒ ➢ 抱一摞luò书



## 挂 guà

掛ける, つるす

- 挂在墙上 guàzài qiánɡshang 壁に掛ける
- 墙上挂着一张地图dìtú
- 把大衣挂在衣架yījià上
- 挂钟 guàzhōng ➢ 挂钟 guàzhōu



## 扔 rēng

投げる, 投げ捨てる

- 这个没用méiyòng, 扔了吧。
- 不要乱扔果皮。Búyào luàn rēng guǒpí.
- 扔石头shítou ➢ 扔烟头yāntóu



## 捡 jiǎn

拾う, 拾い上げる

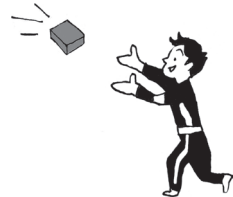
- 把扔在地上的废纸fèizhǐ捡起来。
- 捡起废纸扔进纸篓zhǐlǒu。
- 捡柴cháí 薪を拾う ➢ 捡粪fèn ふんを拾う



## 投 tóu

(目标に向かって) 投げる, ほうる

- 投球投得很准zhǔn 正確に投球する
- 投中目标 tóuzhòng mùbiāo 目標に命中する
- 投铅球qiānqiú ➢ 投手榴弹shǒuliúdàn



## 接 jiē

(手で) 受ける, 受け止める

- 他接住了扔过来的东西。
- 盆里pénli接了好多雨水。
- 用手套接球 ミットでボールを受ける

訳語のない語句は辞書を引いて調べてみましょう。

## 多邻国 (Duolingo)

1か月ぐらい前から遅ればせながら「Duolingo」で英語の学習を始めている。この年で今更、という感もあるが、まあ、どんなものかという、興味本位もあって始めたが、なかなかこれが「はまる」のだ。時には1日に2時間以上もスマホに向かって格闘する日もある。

中学生英語のレベルから始めたが、レベルが上がったり、サファイアとカルビーとかのランクが上がるのも学習意欲をかき立てる。ランキングで下位の人が近づいてくると、追いつかれてたまるかと、ついつい熱くなる。なるほど、語学はこんな風にしてやるのも悪くはないと思う。

私は英語の勉強としては、以前から毎日1本英語のドラマ（ミステリーチャンネルのミステリー）を見るようにしているが、Duolingoを始めて1か月で今までよりもセリフがよく聞けるようになった気もしている。「Duolingo畏るべし」である。

Duolingoには英語だけでなく、中国語や韓国語などもあるので、こちらも時々試しているが、どれも実によく考えられている。すでにやっている方はご存知だろうが、1つのユニットが10から20のレッスン、1レッスンが大体2、3分、長くて5分ぐらい。調子が良ければ一気に1ユニットやってしまうことも可能ではあるが、少々大変。今やっている英語だと3ユニットか4ユニットで1レベル上がる。

リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング4技能がバランス良く配置されているとは言われるが、ただ、韓国語（ハングル）や中国語（漢字）ではライティングは現状ではほとんど無理である。これはデバイスの制限にもよるのだろうが、この辺りがアルファベット言語との大きな違いかも知れない。表音文字という点では韓国語も同じではあるが、アルファベットと違い、ハングルを入力できる環境が整っていない。中国語ではピンインは可能だが、漢字を「書く」という行為は無視される。

実はこの辺りが中検とHSKの大きな違いでもある。HSKではこの「書く」ということが完全に排除されている。

言語の学習においてはこの「書く」、「手を動かす」という行為も極めて重要な要素だと私は思っている。何度も書いて覚えるという昔ながらの学習法はもっとも見直されてもいい。

加えて、Duolingoでも「翻訳」の要素がちゃんと組み入れられているが、HSKではこの部分も無視される。非母国語話者が他の国の言葉を学ぶのと母国語話者が自分たちの言葉を学ぶのとでは明らかに違った脳の働きがあるはずである。中検ではこの点を重視して「日訳中」「中訳日」を取り入れているが、母国語を介して外国語を学ぶことの意味、その方法を言語教育にたずさわる私たちはよく考えて行くべきだと思っている。併せて、中検でもDuolingoのような学習ソフトが作れないかとも夢想しているこの頃である。

(内田 慶市)

## “没学三年”と“三年没学”

魯 曉琨（文京学院大学）

過去3回は“不”と“没”が述語部分を否定する場合、助動詞を否定する場合、状況語を否定する場合という3つの使い方を説明しました。その場合では“不”と“没”はいずれもその後の文成分を否定します。つまり、“不”と“没”は否定する文成分の前に置かれます。これが“不”と“没”が否定する部分との通常の位置関係だと言われています。しかし、通常とは異なる場合もあります。つまり、“不”と“没”に否定される部分が“不”と“没”の直後ではなく、他の位置にある場合です。ここでは“没”に絞ってその否定部分の位置を見てみましょう。

“没”が結果補語を否定することは早い段階で習います。例えば、

- (1) 今天的课没听懂。(今日の授業は聞いて分かりませんでした。)
- (2) 昨天的作业没做完。(昨日の宿題はやり終えていません。)

例(1)では、“没”は動詞“听”を否定するのではなく、結果補語“懂”を否定しています。つまり、聞いたことは聞いたが、理解できませんでした。(2)も同様に解釈できます。

結果補語の否定は分かりやすいですが、数量が含まれる文を否定する際は、やや複雑で、いくつかの表現があります。

### ケース1

- (3) 他没买三套房子。(彼は家を3軒は買っていません。)
- (4) 我没上两节课。(わたしは授業を2コマは受けていません。)

この場合では、“没”は「動詞+目的語」を否定するのではなく、数量を表す目的語の限定語を否定しています。(3)では「彼は家を買った」を否定するのではなく、「3軒」を否定しています。ここで注意すべきは、“没”は限定語としての数量を完全に否定するのではなく、その数量より少ない、すなわちその数量に達していないことを表しています。(3)は買った家は3軒ではなく、3軒よりも少ない軒数であり、2軒か、1軒を買ったことを示しています。(4)も同様に解釈できます。

### ケース2

- (5) 他没去过两次北京。(彼は北京に2回は行っていません。)
- (6) 我没学三年汉语。(わたしは中国語を3年間は勉強していません。)

この場合では、“没”は「動詞+目的語」を否定するのではなく、数量補語を否定しています。(5)では、「北京に行ったことがある」を否定するのではなく、「2回」を否定しています。ケース1と同様に、“没”は数量そのものを完全に否定するのではなく、その数量よりも少ない、即ちその数量に達していないことを表しています。(5)では北京に行ったのは2回ではなく、2回より少ない回数の1回であることを示しています。(6)も同様に解釈できます。

ケース1もケース2も否定された数量は“二”以上でした。数量は“一”である場合でも上記の文型は成立します。例えば、

(7) 他没买一套房子。(彼は家を買っていません。)

(8) 他没去过一次北京。(彼は北京に行ったことがありません。)

“没”は“一”を否定し、“一”に達していないことを表しています。(7)は“他没买房子”と同じ事実を言っています。(8)も同様に解釈できます。ただし、この文型はよく次のように用いられます。

(9) 甲：很多有钱人都在北京买房子了，他好像没买。

(多くの金持ちは北京で家を買ったが、彼は買っていないようです。)

乙：他没买？没买一套！（買わなかった？1軒さえも！）

例(9)では、“一套”を否定し、反語で“一套”より多い数量であることを示しています。このことにより数量の完全否定を表す場合、普通ケース3の文型を用います。

ケース3

(10) 他一套房子也没买。

(彼は家を1軒も買っていません。)

(11) 他一次北京也没去过。

(彼は北京に1回も行ったことがありません。)

(12) 今天我一节课也没上。

(今日、私は授業を1コマも受けていません。)

(13) 我一天汉语也没学过。

(私は中国語を一日も勉強したことがありません。)

この場合では、“一……也没”で数量の完全否定を表しています。“一……也”は文中では状況語であるため、“没”はその状況語を否定するが、事実上は動作が行っていないことを強調しているのです。

“没”が直前の状況語を否定するのは、次のケース4にも見られます。

ケース4

(14) 我三年没学汉语了。(私は3年間中国語を勉強していません。)

(15) 我三个月没抽烟了。(私は3か月タバコを吸っていません。)

この場合では、“没”は状況語の位置にある数量を否定しています。(14)では“没”は“学汉语”ではなく、“三年”を否定しています。(15)も同様に解釈できます。ただし、このケースは時間量に限定されており、回数は成立しません。例えば、

(16) \*他两次没去过北京。

この場合では、“没”は前の時間量を完全に否定しています。(14)の“我三年没学汉语了”は三年間を完全に否定し、つまり3年間1日も中国語を勉強しなかったと言っています。一方、ケース2(6)の“我没学三年汉语”は3年に達していないだけで、2年11か月勉強したかもしれません。時間量は文中での位置によって、意味が異なることを覚えていただきたいです。

## 中国語の“想”，“愿意”，“要”について（3）

王 志英（沖縄大学）

“想”は話し手の思考活動を表し、ある出来事に対して思いを巡らせたり、判断したり、評価したり、推測したりする意味を持つ。一方、“愿意”にはこのような用法はない。

(1) a 你想想对不对。(正しいかどうか考えてごらん)

b\* 你愿意对不对。

主体の同意・受容を表す場合には“愿意”を用いることができるが、“想”は用いることができない。

(2) a 妈妈不愿意我学医。(母は私が医学を学ぶことを望んでいない)

b\* 妈妈不想我学医。

“想”，“愿意”を反復疑問文の形で質問する場合，“想”は“没有”，“不”の両方が使えるが，“愿意”は“不”しかで質問することができない。

(3) a 想没想过她会来？(彼女が自らやってくることを考えたことがありますか)

b\* 愿意没愿意她来？

c 愿意不愿意她来？(彼女が自らやってくることを望んでいるか)

“想”は後に名詞を目的語として取ることができるが，“愿意”はできない。

(4) a 他很想家。(彼はホームシックになっている)

b\* 他很愿意家。

“愿意”は後の目的語を省略して単独に用いることができるが，“想”にはそのような用法はない。

(5) a 对这件事他很不愿意。(彼はこのことについては大変気を悪くしている)

b\* 对这件事他很想。

“想”は後に“好”や“到”などの補語やアスペクト助詞を伴うことができるが，“愿意”にはそのような用法はない。

(6) a 你想好了吗？(決まりましたか)

b\* 你愿意好了吗？

(7) a 正想着今晚吃什么呢。(晩御飯をどうすればいいかと考えているんだ)

b\* 正愿意着今晚吃什么呢。

同様に“想”は重ね型や数量補語を伴うことができるが，“愿意”にはそのような用法はない。

(8) a 你好好想想看。(よく考えてみてください)

b\* 你好好愿意愿意看。

(9) a 多想一会儿就想起来了。(しばらく時間をかければ思い出す)

b\* 多愿意一会儿就愿意起来了。